

今月の表紙

冬景色

(撮影:村上 利美様)

第7回「がんばろう熊本 未来に伝えたい農業・農村の風景」  
フォトコンテストで、入選された方の作品の中の1点です。

- 「令和2年度熊本県農業政策・予算」を要望
- 日米貿易協定が発効
- 第67回熊本県家の光大会が開催される
- 第19回RKK学童駅伝大会に協賛
- 参議院議員藤木しんや氏コラム
- 参議院議員山田としお氏コラム
- JAくま青壮年部活動報告
- 中央会・連合会からのお知らせ

農政連情報

# みどりの風

2020 (令和2)年 FEBRUARY vol.361



## あぜみち

本年の重要な農政課題は、3月に閣議決定が予定される食料・農業・農村基本計画の見直しや、日米貿易協定の再協議規定による予備協議において、米国大統領選挙を背景に農産物の関税引き下げ等の追加要求が行われないか、さらには、牛肉等のセーフガードについても、TPP参加国との修正協議が必要となっており、年内合意を目指しているRCEP(東アジア地域包括的経済連携)交渉を含め、その動向を注視し、適切な農政運動を行う必要がある。

その他にも、2年産米の需給緩和の恐れや、農業労働力の確保、農業・水利施設の老朽化、自然災害への対応、終息の兆しが見えないCSF(豚コレラ)やASF(アフリカ豚コレラ)、高病原性鳥インフルエンザなどの家畜伝染病の侵入も懸念されるところであり、さらには中東情勢如何によっては燃油高騰も危惧され、課題や心配事は枚挙に暇がない。

このような中、新たな食料・農業・農村基本計画の検討の中で農水省は、大規模な担い手の育成だけでなく、中山間地域を念頭に小規模や家族経営、兼業農家等多様な農業を後押しする必要性を示している。これは特に中山間地域の県内農業者やJAが主張していた規模拡大や、担い手偏重の政策だけでは、農業の維持・拡大には限界があるということがようやく目の見えたものであると感じている。

前出の課題等は、農業者の努力では解決できない深刻な問題である。新たな基本計画では農の価値を高め、持続可能な農業・地域政策を確立できるものとなるよう生産現場から声を上げようではないか。

発行/熊本県農業者政治連盟

熊本市中心区南千反畑町2-3 電話 096-328-1284

編集責任者 中村 隆宏

発行日/令和2年1月15日・毎月1回15日発行

定価/1部50円(但し、会員の購読料は会費の中に含む)

# 「令和2年度熊本県農業政策・予算」を要望



▲蒲島郁夫県知事(右から4人目)に要望書を手渡した県内農業団体の代表

JAGグループ熊本と県農政連は、12月13日県庁等にて、県知事と県議会議長、自民党県連に対し、令和2年度の熊本県農業政策・予算の要望を行いました。

県庁を訪れたのは熊本県内13農業団体の代表者で、農業予算では、水田産地化総合推進事業、くまもとの米・麦・大豆魅力発信・競争力強化事業など、57事業におよぶ218億2000万円を要望しました。

また、農業政策要望においては、日米貿易協定が発効されることから、その影響緩和対策と恒久的な予算確保や、3月にも閣議決定が予定されている「食料・農業・農村基本計画」においては、食料安全保障政策の確立と自給率等の向上を要望しました。その他

の重点事項として、新規就農者、担い手等の支援、補助事業の要件緩和、人口減少社会を背景とした労働力不足や輸送コストの増大、農業用廃プラスチックの処理料高騰、国内外からの家畜伝染病の侵入・感染拡大への脅威などへの対策を講じるよう要望しました。

JANA熊本中央会の宮本隆幸代表理事会長は「来年1月に発効される日米貿易協定等、かつてない大型市場開放により、生産現場では将来の農業への不安が広がっている。農業後継者への経営継承や国際貿易協定に立ち向う上でも、農業の生産基盤強化が必要」と訴えました。

蒲島郁夫熊本県知事は生産性向上、競争力強化など、万全の対策をとっていく。要望内容は大変重要なものばかり。十分に検討し、要望の趣旨に沿うよう取り組みたい」と応じました。

JAGグループでは例年県政等に農業者の声を反映させるため、予算編成を控えたこの時期に、毎年「要望書」を提出しています。



▲井手順雄県議会議長(右)に要望書を手渡す宮本隆幸会長



▲前川収自民党県連会長(中央)に要望書を提出

## 重点要望事項

- (1) 日米貿易協定等に係る影響緩和対策と恒久的な予算確保
- (2) 食料安全保障政策の確立と自給率等の向上
- (3) 新規就農者、担い手等への支援
- (4) 生産者向けの補助事業の要件緩和(全作物共通)
- (5) JANA共同利用施設の老朽化に伴う再編整備等への取組支援
- (6) 輸送コスト低減対策
- (7) 農業用廃プラスチックの処理料高騰対策
- (8) 鳥獣被害防止対策
- (9) 労働力確保対策
- (10) 防疫体制強化対策
- (11) 畜産クラスター事業の十分な予算確保と恒久的な措置
- (12) 酪農生産基盤強化対策
- (13) 県域JANAの実現に向けた取り組み支援
- (14) 改正農協法5年後検討条項を見据えたJANA自己改革の後押し

## 日米貿易協定が発効

日米貿易協定が1月1日、発行しました。日本は牛肉・豚肉などを発効と同時にTPPと同水準まで関税を削減します。

国内生産への影響が懸念される牛肉の関税率は、38.5%が26.6%に削減。豚肉は、高価格帯にかかる関税が4.3%から1.9%に、低価格帯にかかる関税は1.4%当たり482円に下がります。

農林水産省は、米国抜きのTPP11の影響も合わせて、農林水産物の生産額が最大2000億円減少すると試算しましたが、国内対策で農業所得や生産量は維持されるとしています。19年度補正予算案には3250億円の国内対策費を計上し、和牛・乳牛の増頭奨励金などが新設されます。

今後、日米両政府は、事務レベルで追加交渉の予備協議に着手し、4月末まで交渉範囲を決める方針としており、追加交渉で扱う分野は「関税や他の貿易上の制約、サービス貿易、投資」とされています。

また、牛肉などのセーフガード(緊急輸入制限措置)の発動基準の見直しも課題となっており、TPPのSGは、米国離脱後も元の水準のままで、TPPと米国向けのSGの併存で、低関税での輸入可能量がTPPを超えてしまいます。

日本は、TPP加盟国と米国からの輸入量合計で、TPPのSGが発動する仕組みへの移行を、2020年度前半までの修正協議完了を目指しています。

## 第67回熊本県家の光 大会が開催される

JA熊本中央会と家の光協会は12月12日、熊本市で第67回県家の光大会を開催しました。教育文化活動の一層の活性化が目的です。記事活用体験発表では「人生100年 家の光といきぬく楽しみ」と題して発表したJAたまなの中尾小百合さんを、普及・文化活動体験発表では「今、何ができる？」私「家の光」をを発表したJA阿蘇の小堀文さんをそれぞれ最優秀賞に選びました。二人は、来年2月に福岡県で開催される全国家の光大会に、熊本県代表として出場します。

大会には、「家の光」愛読者や女性部、青壮年部、JA・連合会の役員ら約800人が参加しました。

第42回ちやぐりん読書感想文で優秀賞を受賞した平野瑠南さん（玉名市立小天小学校3年）が作文を朗読。女性部活動発表大会もあり、歌や踊り、寸劇や女相撲などを披露して会場を盛り上げました。

その他の表彰者は次の通りです。

◇中央会表彰▽「家の光」特別普及JA表彰ⅡJAやつしろ▽「家の光」12月号特別運動優績JA表彰ⅡJA菊池、JA熊本つき▽「ちやぐりん」8月号特別運動優績JA表彰ⅡJAかみまき▽生活文化活動普及功労団体Ⅱ21世紀の会  
◇家の光協会表彰▽「家の光」普及功労団体表彰ⅡJA菊池▽「地上」普及

功労団体表彰ⅡJA菊池▽「ちやぐりん」普及功労団体表彰ⅡJAたまな、JAやつしろ

◇中央会・家の光協会表彰▽優良読書グループJA表彰ⅡJA鹿本、JAあまきさ



▲ちやぐりん読書感想文を朗読する平野瑠南さん



▲記事活用体験発表で受賞したJAたまなの中尾小百合さん



▲普及・文化活動体験発表で受賞したJA阿蘇の小堀文さん

## 第19回RKK学童駅伝大会に協賛

県産農畜産物で子どもたちを応援！

JA熊本中央会とJA熊本経済連は12月7日、熊本市で開催された第19回RKK学童駅伝大会に、JAグループ熊本として特別協賛しました。未来を担う子どもたちを応援し、県産農畜産物を提供して食と農の魅力をPRしました。県内の小学4年生から6年生の児童約530人が参加し、5区間8\*を駆け抜けました。

走り終えた子どもたちには、参加賞として焼きたての「味彩牛」とSPF豚の串焼きやおにぎり、県産ミニトマトを振る舞いました。氷川町ジュニア陸上部の加納蓮嗣くん(11)は「学校では1番だけど、大会では自分より強い選手がたくさんいて悔しかった。美味しいお肉を食べて、また練習を頑張りたい」と悔しさをにじませ、串焼きを頬張っていました。応援に来た保護者からは「こんなに豪華な参加賞があつて子どもたちも喜んでいる。JAの食べ物だから安心だしありがたい。また参加したい」との声が上がりました。

また、入賞チームには、くまもと黒毛和牛プレミアム「和玉」や「くまもとのり」など、県産野菜の詰め合わせなどを贈呈しました。併せて企画したお楽しみ抽選会でも、「和玉」や「くまもとのり」など、くまもと売れる米づくり推進本部が米100\*などの豪華賞品を贈りました。

JA熊本中央会の宮本隆幸代表理事会長は、JAグループは農家が丹精込めてつくったお米や野菜などを、日本中の

食卓にお届けしていると紹介し「身体づくりで重要なのは食事。バランスよく食べ、スポーツや勉強を頑張つてほしい」とあいさつしました。JA熊本経済連の加末誠一代表理事会長は「東京オリンピックの次を目指して精一杯練習に励み、ぜひ未来のオリンピック選手になつてほしい」と激励しました。



▲あいさつをする宮本会長と加末会長



▲串焼きを受け取る児童



▲県内約530人の児童が駆け抜けました



▲県産農畜産物を贈呈

全国農政連推薦・県農政連公認  
参議院議員藤木しんやの

## 永田町でも「百姓宣言」

### 「夢を語れる農業を実現」

【農業予算と関連政策の充実に奮闘】  
年末の政策価格決定や税制、何よりも補正や次年度予算の議論は、農林水産関係団体の強力な激励や応援も頂き、若干の増額ですが前年並みを確保することができました。

しかしながら、1月1日から発効された日米貿易協定による影響を注視しながら、我が国の農業生産基盤の強化、食料自給率の向上対策など、幅広い分野で効果的な対策が必要で。

特に私は、農林水産物の生産に直接携わる農家の方々が活用しやすい運用にすべきだと農林水産省の中で声を上げています。申請手続の簡素化なども課題です。現場の課題を是非お寄せください。

また地方創生を図るため、農業、林業、漁業、商工会議所、企業などが連携して地域活性化に取り組み動きがあります。「共創の日」として東京都内でシンポジウムが開催されました。先進事例の構成団体にはJAが必ず入っています。地域に根ざすJAの姿が全国的に注目されていることを実感しました。

### 【現場の期待感と実情】

昨年末のことを思い出ししてみると、全産業的な労働力不足への対応策として、新たな在留資格の創設に向けた議

論が大変注目されました。当時は最大34万人を受入れるということで、日本に再び黒船が来る等と賛否の大激論があったのですが、結果として「特定技能制度」が創設され、適切な運用をはかるための出入国在留管理庁が創設されるに至りました。

熊本県ではJAGグループが行政といち早く連携し、受入れ体制の整備を進めてきました。一年が経過し、国全体としての実態を見ると外国人材の最大の送り出し国である中国について二国間協定の最終合意に至っていない等、受入れ実績は少数にとまっております。またまだ課題がある様です。春からの農繁期に向けて農業現場での人材不足も深刻な問題となつてきます。政府が進める働き方改革を实践する以前に、働き手がいけないという深刻な事態とならない様、取り組んで参ります。



▲兵庫県で開催された車座ふるさとトークで農業の魅力を発信

全国・県農政連推薦  
参議院議員山田としおの

## 農政問題に斬り込む

### 「次期食料・農業・農村基本計画の議論」

【最大の課題は、担い手の確保】

食料・農業・農村基本計画の改訂は、農林水産省の食料・農業・農村政策審議会での議論が重ねられてきており、私は、党の農業基本政策検討委員会の事務局長として役割をいただき、連日、党の多数の議員が出席する会合での司会・運営役を仰せつかっています。3月には党のとりまとめをします。その意味では、今は大切な検討の機会なのです。引き続き、農林幹部会の少人数会合（インナー）の役割もいただき、改訂議論にしっかりと参画し、皆さんに評価される基本計画を作っていく決意です。

これまでの経緯をながしるには出来ないのですが、急速な環境の変化に対応し、将来を展望し、農業者はもちろん、JAも市町村も意欲的に取り組めるものになければなりません。

その中で、私は、最大の課題は、担い手の確保だと思っています。わが国の就農者は、今、圧倒的に高齢化しています。49歳以下の新規就農者は毎年2万人ですが、49歳以下の基幹的農業従事者は、14万8000人で、全体の10%に過ぎません。一方で、65歳以上の基幹的農業従事者は、98万人で全体の70%を占めています。

フランス等では、一定の年齢になったら、離農して街に出て住み、農地と経営を息子や他の新規就農者に譲る形をとっています。一方、わが国では、家族を中心に後継者に譲る形が中心です。もちろん、それも安定性があるとは言え、規模拡大や経営の多様化が求められる中で、家族経営を中心に、どう経営継承をスムーズに進めるか、場合によれば作物の転換も求められます。これらの課題が、大きくのかかってくるのだと思います。

### 「担い手に対する経営所得安定制度の充実が必要」

改めて、ヨーロッパ並みに経営所得安定制度を充実させ、地域を守る担い手をつくり上げる政策が必要で、確たる担い手がいなければ、早晚、わが国の中山間地や、都市近郊の農地も消えてしまつ。「地域の農業を支える」、「地域としての協同の活動がある」、それがあつてはじめて「地域」が支えられ、地域の皆さんと国土が守られるのではないのか。その思想と政策が必要なのです。

わが国でも、作目別の経営所得安定制度が講じられています。また、新たに収入保険制度も導入されました。作目ごとの特性もあり、その特性もふまえた最適な制度の詰め議論がなされ、真の経営所得安定制度が講じられなければなりません。今回の基本計画の改訂で、どこまで検討を深めることができるかが求められます。

頑張ります。

# J A くま青壮年部活動報告

熊本県のJAくま青壮年部は、現在9支部448人で活動しており、管内では水稲・野菜・果樹・施設園芸・畜産など、多種多様な農畜産物を生産しています。

主な活動は、農政活動をはじめ、食育活動、様々な研修会を通じた生産・経営基盤の確立、JA役員・女性部との意見交換会等を通じたJA運営への積極的な参加・参画を行っています。

## 「食」と「農」の大切さを伝える食育活動



▲木上小学校で苗づくりを指導する青壮年部

管内では、各支部で園児や小学生を対象に田植えや稲刈り、野菜などを育てる農業体験活動を行っています。次世代を担う子ども達に作物ができるまでの苦労や収穫の喜びなど、農業に対

する理解を深めてもらい、食べ物を大切にもらうことが目的です。子ども達は悪戦苦闘しながらも笑顔で一生懸命に取り組んでくれます。引き続き、「食」と「農」の大切さを伝えると同時に、農業のやりがいも伝えていきたいと考えています。

## 「盟友の主張」で相互研鑽を図る

青壮年部では、農業経営や青壮年部活動、将来に向けての希望・意見・提言などを発表する「盟友の主張」発表大会の地区予選会を毎年開いています。農業の担い手として、将来を見通した自立農業経営を確立し、明るく豊かな



▲熊本県大会の盟友の主張発表大会で優秀賞に輝いたあさぎり支部の中原大志さん

な地域社会づくりを目指します。また、活発な意見を出し合いながら相互研鑽を行い、青壮年部組織の更なる発展を図っています。

## JA運営に参加・参画

青壮年部・女性部は、毎年JA常勤役員と意見交換会を開いています。青年農業者の立場から意見や要望を伝えることで、球磨地域全体の農業振興と活性化に努めています。



▲JA常勤役員と意見を交わす青壮年部・女性部

## 農業機械整備講習会



▲刈払機のメカニズムの説明を熱心に聞く青壮年部盟友

多良木支部ではJA農機センターの協力を仰ぎ、農業機械整備会でセルフメンテナンスを学んでいます。機械の長寿命化により、修繕にかかるコスト削減を図り、農業経営に活かしています。

整備会では、同センター職員が修理依頼の多い事例の紹介とともに、メーカーの方が実際に様々な機械を分解し、その工程を見ることでメカニズムも学べ、日頃の農作業時に役立てています。

第44回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール表彰式を開催

JA熊本中央会は12月1日、熊本市で第44回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクールの表彰式を開きました。米の良さと食料・農業の大切さを学んでもらう狙いで毎年開催しています。熊本県知事賞には、作文の部で山田悠人くん（熊本市立向山小学校4年）図画の部で豊住兼伍くん（熊本市立飽田西小学校6年）を選びました。県内小・中学校から、作文の部に2241点、図画の部に2440点の応募がありました。



▲各賞の受賞者たち

山田くんは「おにぎりがぼくの 파워だ」と題し、母が握ってくれるおにぎりをパワーにして野球に打ち込む姿を、生き生きとテンポよくまとめました。豊住くんは、わが家の

田植えの様子を広角でとらえ、自然の風景をさわやかに、家族が田植えをする様子を色鮮やかに描きました。豊住くんは「お父さんが田植え機に乗って苗を植えているところが一番難しかった。大きな賞をもらって夢のような気持ち」と、嬉しそうに語りました。

JA全中が実施した全国コンクールでは、作文の部で山下桃菜さん（菊陽町立菊陽中部小学校1年）、図画の部では、米村珠之助さん（熊本市立桜山中学校1年）が優秀賞に輝きました。

JA熊本中央会の宮本隆幸代表理事会長は「食への物の大切さや農業の役割、自然を大切に

にする心、家族や友達を大切にすることを養ってくださいます。私たちJAグループ熊本は、これからも皆さんを応援します。」とあいさつしました。



▶熊本県知事賞を受けた豊住兼伍くん(右)と山田悠人くん(左)



▶あいさつする宮本隆幸会長

JA 経済連

大阪ラジオイイベントで県産農畜産物をPR

関西での県産農畜産物の認知度向上とファン獲得へ

JA熊本経済連は11月中旬、大阪万博記念公園で開催された「ABCラジオまつり2019」

に初めて参加しました。「にこやか食堂」として「熊本のおいしい

もので、みんなをにこやかに」を掲げ、経済連ブースを出展し、トマトみそ汁の試食を振る舞い、熊本県産黒毛和牛「和牛」の串焼きを販売しました。朝からたくさんのお客様で列ができ、トマトみそ汁、和牛の串焼きともに関西のお客様にも大変好評でした。

経済連の担当者は、「初めての関西でのラジオイイベントだったが、多くの人に興味・関心を持ってもらえた。これからも、熊本県産農畜産物を全国の人に味わって頂けるよう認知度向上に努めると話しました。

直接、消費者とコミュニケーションを図ることで、関西エリアでの熊本県産農畜産物の認知度向上とさらなる

これからも、熊本県産農畜産物の認知度向上とファン獲得を目指し、県内外でPR活動に取り組んでまいります。



関西のお客様にも「和牛」の串焼きは大人気



トマトみそ汁もたくさんの方に試食いただきました。



「にこやか食堂」として出展。たくさんのお客様で列ができました。



## JA共済連

### スタントマンによる自転車交通安全教室を開催しました！

JA共済では毎年、「自転車事故のない社会へ」をスローガンに「JA共済自転車交通安全教室」を熊本県警察と共催で開催しています。

今年度は熊本高等学校、松橋高等学校、球磨中央高等学校、菊池農業高等学校、山鹿中学校、苓北中学校の6校で開催しました。

この自転車教室は中高生を対象に、プロのスタントマンが自転車の危険走行による交通事故を再現し、交通事故の怖さを疑似体験させるといったものです。



▲自転車の危険走行を原因とする、車との事故の再現

スタントマンたちは、自転車の2人乗りや傘さしなどのルール違反の運転により自転車同士が衝突するシーンや、交差点で自転車と車が衝突し、自転車が大きく跳ね飛ばされるシーンを再現。すぐ目の前で行われる迫力のあるスタントに、生徒の皆さんも交通事故の恐ろしさを実感している様子でした。再現の後は、どうしていれば事故が起これずに済んだのか、正しい運転マナーでの実践も行われ、それぞれが交通安全についての意識を高める機会となりました。

今後もJA共済は、県下JA・関係機関のご協力のもと、このような地域に貢献する活動に取り組んでいきます。



▲自転車同士の衝突事故の再現



▲正しい運転マナーの確認

## JA厚生連

### 緑内障について

緑内障とは、目から入ってきた情報を脳に伝達する視神経という器官に障害が起これば、視野（見える範囲）が狭くなる病気の事です。今回は緑内障について紹介します。

緑内障は進行するまで自覚症状はほとんどありません。視野が少しずつ狭くなりますが、両方の目の症状が同時に進行することは稀なので、片方の目の視野が一部欠けても、もう片方の目で補ってしまいうため、両目で見ると視野の異常に気が付きません。また、四十歳以上の20人に一人が緑内障を患っていると言われています。

#### 【緑内障の原因と種類】

緑内障の原因のすべては分かかっていませんが、目の中の圧力「眼圧」が大きく関係します。眼圧が高くなると目と脳をつなぐ神経の付け根「視神経乳頭」を圧迫し、目で感じた光や形の信号が部分的に脳に伝わらなくなり、その部分に一致した視野が欠けていきます。眼圧は目の中を流れている水「房水」が目の中で作られる量と目から外へ流れ出る量のバランスで決まります。緑内障は、その房水の目の外への出口「隅角（ぐうかく）」の形によって2つのタイプに分類されます。

（開放隅角緑内障）隅角は開いてはいるのですが目詰まりを起こし眼圧が徐々に上がり視神経の傷みが、ゆっくりと進んでいくという慢性的緑内障です。房水の排出を促進する目薬を使用し眼圧を下げます。

（閉塞隅角緑内障）隅角が狭くなり房水の排出が正常にできず、眼圧が上がると視神経を傷めます。まれに急に眼圧が高くなり目の痛みや視力の低下を生じ、強い頭痛を引き起こします。隅角を広げて眼圧を下げるために、レーザー治療を行い、緑内障が進むスピードを遅くして視野を守ります。

#### 【視野を守るために】

緑内障は生活習慣病ではないので、日常生活の工夫で眼圧を下げたり、視神経乳頭を守ったりはできません。しかしながら、老化を早める糖尿病や高血圧、喫煙などは緑内障に間接的に悪い影響があるので、体をより健康な状態に保つことが緑内障の進行予防にもつながります。

#### 【最後に】

自覚症状が現れる前に定期検査の受診を心掛けましょう。また厚生連の間ドックでは眼圧検査・眼底検査も行っています。体の定期点検のためにも一年に一度人間ドックを受診しましょう。



第45回  
春実感! 春の息吹と大地の香り

KUMAMOTO

# JA 植木まつり

2020  
1/25(土) ▶ 2/24(月)

開園時間 / 午前9時~午後5時

熊本県農業公園  
カントリーパーク  
(熊本県合志市栄3802-4)



JA熊本経済連



自動車事故のリスクに、  
しっかり備えたいあなたに。

**グルマスター**  
自動車共済

くらしの保障、相談するなら **JA共済**  
19481050174

青空の下でいただく大地の恵み  
農園探訪記  
Styling & Cooking . Yu Fukushima

*hug*  
vol.33





QRコードから「hug」  
最新号と直売所の動画が  
ご覧いただけます!

● 盟友の皆様のご意見や周辺地域の話題、写真などをお寄せ下さい。  
連絡先 熊本県農業者政治連盟  
JA熊本県会館10階  
(電話) 0996-3288-12884  
(FAX) 0996-3288-58807

第7回「がんばろう熊本 未来に伝えたい農業・農村の風景」フォトコンテスト入選作品の1点です。  
牛肉に含まれる主な栄養は、タンパク質、鉄分、脂質などです。  
その他、精神的な健康を保つセロトニン、傷の回復や正常な味覚を保つ亜鉛、老化や動脈硬化を防ぐビタミンE、そして女性にとって欠かすことのできない美容ビタミンのビタミンB2など、人間の体内では作ることもできない栄養素が、牛肉には多く含まれています。

「牛さーんご飯だよー」



撮影者 斉藤 悠樹様(菊池市)

